

# 相模女子大学

New Concept Book

あなたが「女性でよかった」と、  
後々まで思える大学でありたい。

社会を思うこと。家庭を思うこと。  
どちらの素養も身につく大学でありたい。

2010年、相模女子大学は、  
創立110周年。

日本における、  
女子高等教育の原点のひとつである本学。  
永く紡いできた伝統があるからこそ、  
見えてくる未来があるのだと思います。

- 1900年 本学の出発点である日本女学校が  
東京・本郷に開設される。
- 1909年 帝国女子専門学校が  
東京・大塚に開設される。
- 1946年 戦火により校舎、学寮のすべてを失い、  
相模原の現在地に移転。
- 1948年 高等部開設。
- 1949年 新制・相模女子大学として再出発。  
中学部開設。
- 1950年 幼稚部開設。
- 1951年 短期大学部、小学部開設。

## 「高潔善美」

固き心を以って、やさしき行をせよ。

本学の創立者である西澤之助が掲げていた言葉。

誇れるルーツがある、という幸せ、  
そして責任。

## 「地域の未来を、

女性ならではの着眼点で発想し、  
そして貢献していく女性。」

創立のときから目指しつづけてきた女性像を、  
相模女子大学はいま、こうイメージしています。

そういう人財が育つために、相模女子大学は存在する。  
それは「これからの時代、社会が女子大学に求める  
意味とは何か？」という問いへの、  
私たちの答えでもあります。

誠実で清楚。

女性らしいやわらかさをもつ相模女子大学の印象にふさわしく、  
始まりから未来への想いをつなぐ新しいロゴマークです。



*Sagami Women's University*

原点、いま、そして未来。

まもっていくこと、変えていくことを想って、  
相模女子大学が新しく掲げるスローガンです。

見つめる人になる。 見つける人になる。

見つめる人になる。 見つける人になる。

いま、時代は、「こうであるべき」  
「こうであれば大丈夫」という前提が  
次々と崩れているという、  
かつてない状況にあります。

だからこそ、女性ならではの、  
物事に対する自由で柔軟な感じ方や考え方が  
いまこそ求められているのだと思います。

女性本来の、やさしいチカラ、やわらかなチカラが、  
あらためて求められているのだと思います。

110年という歴史を持つ相模女子大学は、  
まさに日本の女子高等教育の原点として、  
フロンティアとして、他にはないノウハウ、  
文化、環境を充実させてきました。

ひとり一人の感性や発想を  
型にはめるのではなく、  
より大きく育てるための、のびのびとした、  
それでいて面倒見のいい教育風土。

それは、人として、女性として、  
人生の階段を見つけ、  
登り始めるための貴重な時期に、  
まさにふさわしい舞台です。

女性ならではのしなやかな発想力、  
豊かな包容力を身につけながら、  
「未来を、世の中を見つめ、  
道を、答えを見つめる人になる」。  
そういう素晴らしい人財を育てていくこと。  
それが相模女子大学の存在価値だと考えます。

「見つめる人になる。見つける人になる。」のスローガンを、  
ただ掲げるだけで終わるのは、それこそ空念仏というものである。  
一体何を「見つめる」のか、そうしてまた何を「見つける」のか。  
それは、見つめ方によって決まってくるとするなら、  
まず「見つめる」術を  
自分のものから始めなければならないとして、  
果たしてどのようにすれば習得できるのか。  
「見つめる人になる」には、  
思うに、今日のわれわれはつねに余りにも多くを見過ぎている。  
知るということは、所詮、高が知れている。  
それに比べれば、見ることの方が、ずっと重い行為であり、  
それだけに見者たることは、どうして容易でないとき、  
「見つめる人になる。見つける人になる。」  
のスローガンを具体的な実行に移すのも、  
短時日には成就しない、難事業となるのは確かなことである。

学長 谷崎昭男



新しいマークは、  
これまでの校章のモチーフ「八咫の鏡」を継承。  
その中に相模女子大学の頭文字 SWU が  
花のように配置されています。